



と ろ

清

- ごあいさつ..... 2
- 企画展 ちょっくら よってがっせえ
「ジオパーク秩父へのいざない」から..... 3
- 博物館が新しくなりました..... 4
- 企画展「オオタカは大きくない～鳥たちの世界～」..... 6
- 表紙解説・催し物（1月～6月）のお知らせ..... 7
- 表紙の写真..... 8

ごあいさつ

「リフレッシュオープンを迎えて」



館長 伊勢 重雄

1 施設の大規模改修の実施

当館は、自然史博物館として昭和56年11月に開館し、開館以来約30年を経過し施設が老朽化したことから、平成23年9月から約1年1月間休館し、施設の大規模改修を行いました。

長期間の休館により、地元の長瀨町を初めとして多くの方にご迷惑をおかけし、改めてお詫びを申し上げます。

お陰様で大規模改修が終了し、平成24年10月6日から再オープンすることができました。長期間の休館後の再オープンですので、来館者の皆様にとって安心・安全な施設であるとともに、一部の展示の見直しなどを行い、「リフレッシュオープン」として再スタートを切ることといたしました。

2 リフレッシュオープンの目玉

(1)体験ゾーンの新設

リフレッシュオープンの目玉の一つ目は、子供達が理科の様々な体験により自然と学ぶことができる「体験ゾーン」の新設です。パレオパラドキシアの展示を移動するなどしてスペースを生み出し、体験できるディスカバリーコーナーをつくることにより既存の触れるはく製コーナーなどと合わせてゾーンとして新設しました。

(2)ジオパーク秩父のガイダンス機能の充実

二つ目は、企画展「ジオパーク秩父へのいざない」の開催です。平成23年9月に秩父地域がジオパークに認定され、当博物館はジオパーク秩父のガイダンス施設としての役割を担うこととなりました。この企画展とともに、企画展終了後は常設展示の一部を見直し、ジオパーク秩父のガイダンス機能を果たしてまいります。

(3)カエデの森の新設

三つ目は、観察園「カエデの森」です。平成23年度に21種37本のカエデを植栽しました。既存のカエデとともに、博物館の屋外の魅力も高めてまいります。

(4)解説ボランティアの導入

四つ目は、「解説ボランティア」の導入です。10名のボランティアの方のご協力で実現しました。学芸員による解説とともに、より分かりやすい博物館を目指してまいります。

3 リフレッシュオープン記念イベント

そして、10月6日（土）から10月8日（月）の祝日までの3日間には、リフレッシュオープンの記念イベントを開催し、恐竜化石の組み立てデモンストラクションや友の会のご協力によるミュージアムショップを開催し、3日間で6,532人の来館者をお迎えすることができました。

秩父地域振興センターなどの関係機関や秩父鉄道株式会社を初めとする地域の皆様のご協力にも感謝を申し上げます。

4 今後の博物館の魅力づくり

さて、お陰様でリフレッシュオープンは好調なスタート切れたと考えておりますが、大切なのはこの好調を持続することです。

県立博物館として、県民の皆様の目線を常に意識し、次の三つを実現することにより博物館の魅力を高めてまいります。

(1)展示や展示解説の不断の見直し

当館は、小学生から専門家まで様々な来館者をお迎えします。同じ展示や解説で全てのお客様にご満足いただくことは難しいことですが、例えば解説リーフレットをお客様に応じて複数ご用意するなどの見直しを行うことにより、分かりやすい博物館を目指してまいります。

(2)体験ゾーンの充実

新設しました体験ゾーンはお陰様で好評をいただいておりますが、今後は学校のご要望などもいただき、学年や学習進度などをより意識した体験ゾーンとしてまいります。

(3)観光資源化

当館は県下有数の観光地である長瀨町に位置しています。名勝地「長瀨」の自然はもとより、ジオパーク秩父のガイダンス機能を充実させ、博物館自身が観光地長瀨にとって不可欠な存在になれるよう努力してまいります。

どうか多くの皆様のご来館をいただけますよう、心からお願いいたします。

(しぶさわ しげお・館長)



企画展 ちょっくら よってがっせえ 「ジオパーク秩父へのいざない」から

本 間 岳 史

博物館のリフレッシュオープンに合わせ、企画展「ジオパーク秩父へのいざない」を開催しました。“自然と人との共生”の視点から秩父の風土を紹介した今回の展示は、来館者に新鮮な印象を与え、関心をもっていただけたようです。ここでは、そのエッセンスをお伝えします。

【秩父の大地】 秩父山地は、奥秩父山地・秩父凹地帯・上武山地・外秩父山地に地形区分され、中生代の付加体や変成岩、新生代の地層などで構成されています。また標高に応じて、中間温帯・冷温帯・亜寒帯に属する林がみられます。

【ところ変われば生きもの変わる】 動・植物は、秩父の大地と深い関わりをもって暮らしています。石灰岩地にはチチブイワザクラやマイマイの仲間など固有の生物が数多くみられ、鍾乳洞にはコウモリの仲間が生息しています。チャートの岩壁にはムカデランやイワタケが着生し、イワツバメが営巣します。

【秩父の風土に培われた“伝統の技”】 水耕に適した平坦地が少なく火山灰土壌が広がる秩父地域では、早くから養蚕と絹織物が盛んとなり、江戸時代には広い地域で営まれました。明治20年頃からは工場経営が進み、「秩父銘仙」の名で知られるようになりました。

「解し捺染」という染色技法により、表が色あせても裏を使って仕立て直しができ、大正から昭和初期にかけて女性たちの実用着やおしゃれ着として人気を博しました。



【災い転じて福となす—地すべり地形の利用—】

かつて地すべりを起こした地域は、地面の傾斜がゆるくなるため土地利用がしやすくなり、畑や住宅地などに利用されます。芦ヶ久保地域では果樹公園に、栃本地域では畑や街道（秩父往還）に、それぞれ利用されてきました。

【“一味違った”札所の地学めぐり】 秩父の札所（観音霊場）には、急崖・滝・岩窟などの自然地形を巧みに利用した建物や巡拝道があります。境内には、不整合・堆積構造・洞窟・湧水・河川地形・風化地形などがみられる所があり、地形・地質を楽しみながら札所をめぐるジオツアーが行われています。

【秩父の風土とふるさとの味】 秩父地方には、郷土料理（伝統食）がたくさんあります。農作業の合間など小腹がすいた時に食べる「小昼飯」などを体験するのも、ジオパーク訪問の楽しみのひとつです。

秩父市街地の段丘崖下に湧出する地下水は、育苗・共同洗い場・醸造・生簀・銭湯・信仰などに利用され、石灰岩地から湧出する名水、地酒、地場産品、カエデの樹液を用いたお菓子などが、来訪者に喜ばれています。



【ジオパーク秩父の活動】 ジオパーク秩父を紹介する出前展示や、研修会・講習会への講師派遣、雑誌への投稿など、博物館の取り組みを中心に紹介しました。また企画展示室の通路に、全国各地のジオパークから提供していただいたポスター・パンフレット・リーフレットを掲出しました。

【体験コーナー】 展示室の一角に、音声ガイドで秩父弁を聞いたり、秩父の山の名前を当てたり、河成段丘などを立体視できるコーナーを設けました。また、よりくわしく知りたい人のために、ジオパークに関する書籍も閲覧できるようにしました。

【開催期間】

平成24年10月6日(土)～平成25年1月14日(日)

(ほんま たけし・専門員兼学芸員)

大盛況

リフレッシュオープン 記念イベント

10月6日から3日間にわたって開催された
オープニングイベント。3日間で6,532人の方
にご来館いただきました。



博物館入口前には連日長蛇の列ができました。

恐竜ガリミスの全身骨格（レプリカ）の組み立て
デモンストレーションを行いました。骨格の特徴を
分かりやすく解説しながらの組み立ては大盛況。
（協力：（有）ミュージアムインポート）



当館には、採集した昆虫や植物、岩石・鉱物などの名前
を教えて欲しいという方が多く訪れます。受付にレファ
レンススペースを設け、質問に答えやすくなりました。

もっと 博物館を 身近に

「気軽に質問できる博物館」
として定評がある当館。
さらに親しみやすい博物館
に生まれ変わりました。

博物館が 新しく なりました



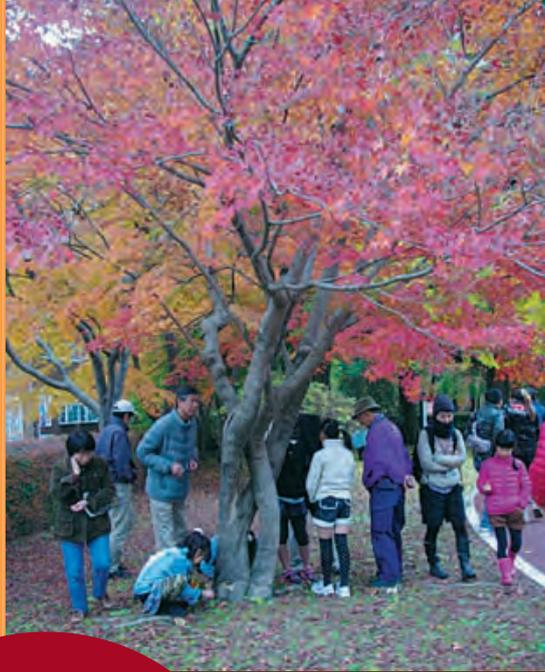
入口に登場した情報コーナー。大型モニターを
設置して博物館からのお知らせや周辺の自然な
どを紹介します。ミュージアムトーク（来館者
に実施するミニ講座）にも活躍します。



新たに導入したボランティアによ
る展示解説。人による解説に勝る
ものはありません。10人のボラン
ティアが活躍しています。

「ジオパーク秩父」 の 魅力発信!





「カエデの森」は埼玉県に自生する21種のカエデを山から移植してつくりました。実生や若木が充実する10年後が楽しみです。

カエデの森 オープン



「カエデの森」の観察とあわせて紅葉の標本をつくる体験講座も行いました。

見て!
触れて!
楽しんで!



窓越しに「カエデの森」をながめながら、カエデについて知るコーナーもできました。



子供たちに一番人気の「さわられるはく製コーナー」を充実させました。

今回の展示改装の目玉「体験ゾーン」。五感を使って子供から大人まで楽しめます。順次内容を更新して行きます。



ディスカバリーコーナーには引き出しがたくさん！何が入っているのかあえて表示はしていません。ドキドキしながら引き出してみてください。



ハテナ型の大きなテーブルは、さまざまなものを観察してもらえるようにつくりました。身近なものも拡大すると、新たな世界が見えてきます。

日本ジオパークに認定された「ジオパーク秩父」の魅力をわかりやすく紹介するコーナーを新設しました。

「ジオパーク」ってなに？
「ジオパーク秩父」のみどころは？などの疑問・質問にお答えします。

企画展

「オオタカは大きくない ～鳥たちの世界～」

奥村 みほ子

当館ではじめてとなる鳥類のみを扱った企画展「オオタカは大きくない ～鳥たちの世界～」がはじまりました。

展示の構成は、次のようにテーマ別のコーナーから成り立っています。

【鳥のからだ比べ】 オウサマペンギン、フクロウ、レンカク、ハチドリなど、様々な形態の鳥のはく製で多様な鳥たちの姿かたちを比較できます。

【鳥の骨格標本】 カルガモやアカショウビンなど、7種類の鳥の骨格標本とはく製を並べて展示し、鳥の繊細な骨格の構造と種ごとの違いを比較・観察できます。



アカショウビンののはく製と骨格標本

【オオタカは大きくない】

オオタカをはじめ、ミサゴやハヤブサなど埼玉県でみられる7種の猛禽類のはく製を展示しています。



猛禽類のコーナー



展示のようす

【埼玉県の鳥 シラコバト】 埼玉県のマスコット「コバトン」のモデルであるシラコバトをはじめ、ジュズカケバトやキジバトなどのハト類のはく製を集めました。

【身近な野鳥・珍しい野鳥】 ウグイスとメジロの比較をはじめ、珍しいナンヨウショウビンのはく製も展示しています。

【水ノ子島灯台の野鳥コレクション】 大分県にある灯台に衝突死した野鳥のたいへん貴重なコレクションの一部を展示しています。鳥は、一般的に「とり目」と言われ、夜は目が見えないように思われていますが、渡り鳥は夜にも長距離を移動することが知られています。灯台の照明に野鳥がぶつかって死ぬことは以前から知られていましたが、多くはそのまま放置されて資料として残りません。しかし、灯台の職員がこれらの死体を拾い集めてはく製にして保管したことで、渡り鳥の生態を研究する上で非常に重要なコレクションになりました。当館で収蔵しているこのコレクション約150体の中から33体を選んで展示しています。

このほかにも、メジロなど身近な野鳥の巣の展示、鳥の羽や鳥に関係する漢字を扱ったクイズコーナー、生態写真コーナーもあります。

[開催期間]

平成25年1月19日(土)～6月9日(日)

(おくむら みほこ・学芸員)

表紙の解説

2013.2月深谷市にて撮影

羽ばたくコハクチョウ *Cygnus columbianus* (Ord, 1815)

「青い水面に美しく優雅に浮かぶ白鳥は、しかし、その水中にかくれた足で絶え間なく水をかいている」

この言葉は、マンガ『巨人の星』の天才肌のイケメンヒーロー、花形満の生き様を語った言葉です。荒川に渡来するコハクチョウたちは、はるか数千kmの距離をシベリアから飛んできます。6月頃にわずか200gに満たない小さな体で生まれたヒナも、生後数か月でこの距離を渡ってきます。彼らの美しさの裏には、多くの苦難が隠れています。

当館は、2012年10月にリフレッシュオープンしました。これを機にいくつかの新しいコーナーが誕生しました。これからも、来館者の皆様の貴重なご意見をいただきながら、日々改善に努めてまいります。今後またゆめぬ努力により未来に向けて一段と飛躍するよう、決意を込めてこの写真を選びました。

(南谷幸雄・主事)

催し物のお知らせ (1月～6月)

あなたもさんかしてみませんか



展 示

	タイトル	期 間	内 容
企画展示	オオタカは大きくない ～鳥たちの世界～	1月19日(土)～6月9日(日)	ハチドリからペンギンまでさまざまな鳥のはく製を展示
	新参者昆虫図鑑 ～多様な埼玉の生きもの～	6月22日(土)～9月1日(日)	平野部から亜高山帯まで、埼玉の多様な自然環境に息づく様々な動植物を紹介
季節展示	石の万華鏡 偏光顕微鏡画像集	1月15日(火)～3月10日(日)	いろいろな岩石を偏光顕微鏡で拡大した画像を展示
	春の植物	3月12日(火)～5月12日(日)	カタクリなどの植物や、早春に花を咲かせる植物を紹介
	夜の訪問者 ～自動撮影カメラのモデルたち～	5月14日(火)～6月30日(日)	あまり知られていない夜の野生動物の姿の写真を展示

※開館時間 9:00～16:30 (休日を除く月曜休館)

イ ベ ント

	タイトル	日 時	場 所	参加費	対象・定員など
観察会	秩父ジオサイト探訪 長瀬岩と鳩糞石	2月23日(土) 10:00～15:00	長瀬岩～親鼻	300円	小学生以上 30名
	古地図片手に地学散歩	3月9日(土) 10:00～15:00	大宮台地 (集合:吹上駅、解散:北鴻巣駅)	300円	小学生以上 30名
	早春に咲く植物を訪ねる	4月13日(土) 13:30～15:30	秋ヶ瀬公園 (さいたま市)	300円	小学生以上 40名
	春の長瀬岩畳	5月25日(土) 10:00～12:30	長瀬岩畳	300円	小学生以上 40名
	石材のふるさとを訪ねて	6月15日(土) 10:00～15:00	長瀬野上～樋口	300円	小学生以上 40名
自然史講座	地質図の読み方	5月11日(土) 13:30～16:00	博物館 科学教室	200円	高校生以上 16名
体験工房	小石の図鑑づくり	1月19日(土) 13:30～15:30	博物館 科学教室	200円	小学生以上 30名
	粘土でつくる動物	1月26日(土) 13:30～15:30	博物館 科学教室	200円	小学生以上 30名
	鉱物の図鑑づくり	2月9日(土) 13:30～15:30	博物館 科学教室	200円	小学生以上 30名
	紙でつくる動物	3月2日(土) 13:30～15:30	博物館 科学教室	200円	小学生以上 30名
その他	バックヤード探検	5月18日(土) ①11:00～11:30 ②13:30～14:00	博物館	入館料	入館者

※観察会、自然史講座、体験工房は事前に申し込みが必要です。詳しくはお問い合わせいただくか、ホームページをご覧ください。

表紙の写真

これまで表紙で紹介してきた岩石や動植物を、カラー写真で改めてご紹介します。

※アングルが異なる写真もあります。



No. 2 象ヶ鼻の緑色岩

寄居町藤田の荒川左岸に面した御荷鉾(みかぶ)緑色岩類からなる大きな岩です。



No. 3 長瀨岩畳に咲くユキヤナギ

ユキヤナギは増水時、冠水による攪乱を受けやすい場所に多くみられます。



No. 5 長瀨でも増えている外来鳥 ガビチョウ

特定外来生物に指定されています。関東地方ではここ10年急増しています。



No. 6 クリハラン再発見

埼玉県では絶滅したとされていたクリハランの育成が確認されました。



No. 7 アズマヒキガエルの包接集団

5月初旬の秩父山地で5m四方ほどの水溜りに50ペア近くが集まっていました。



No. 8 博物館の庭に発生した ツクツクボウシタケ

ツクツクボウシなどの幼虫に寄生する冬虫夏草。40株以上発生していました。



No. 9 青岩礫岩

大部分の礫が緑色片岩の角礫からなる青岩礫岩。県・天然記念物に指定されました。



No. 10 秩父鉱山産の硫砒鉄鉱

秩父鉱山の硫砒鉄鉱は、典型的な菱形中柱の美しい結晶形をしています。



No. 12 セアカゴケグモ

阪神地方を中心に分布を拡大する外来の毒グモ。埼玉県では未発見です。



No. 15 皆野町親鼻の 紅簾石片岩とポットホール

「ジオパーク秩父」のジオサイトのひとつ。地元の方の清掃で内部がきれいに。



No. 16 山のチョウと 特定外来植物の出会い

利根川河川敷に繁茂するミズヒマワリに誘因され平野部でもアサギマダラが出現。



No. 19 カジカエデ

日本固有種のカジカエデ。秩父の山から「カエデの森」に移植した個体が無事大きな葉を広げました。